「技能五輪全国大会」入賞が今年の目標

第21期 修了生　髙田 慎太朗さん〔宮大工、株式会社坂口建設〕

カレッジ通信
発行 東京建築カレッジ
第21期生 祝！ 卒業特集

3月24日、東京建築カレッジから第21期生21人が巣立ちました。働きながらの密度の濃い学びを努力で乗りこえ大きく成長を遂げた人、甘えの気持ちが払拭できず恵まれた学習環境を十分に生かすことができなかった人・・・、修了生は様々ですが、「人生で貴重な2年間を過ごした」という思いでは一致していることでしょう。今年の修了式で、東京都職業能力開発協会会長賞、技能賞を受賞した髙田慎太朗さんに、第21期生を代表して、カレッジの2年間の思い出や今後の抱負を聞きました。

（左）髙田さんの卒業制作作品「自分にとってのものづくり」。合板を張り合わせ、バイクの荷台用ゴムで連結してイスに仕上げた。

カレッジに入学したきっかけは？

都立田無工業高校建築科を卒業後、古川正則先生（カレッジ指導員）の工務店に入ると、「いずれ建築カレッジに入ってもらうからね」という話がありました。仕事だけだと、横のつながりは作りにくいので「それはいいな」と思いました。工業高校の建築科で3年、カレッジで2年ですが、密度の濃さは断然カレッジです。やはりプロが教えているから。高校の3年間以上に成長できました。

印象に残っている授業は？

やはり実習棟実習です。他の班の打ち合わせを含めて、どのように収めるか、まだ新人の自分たちが突き詰めていきます。仕事ではなかなか経験できないことです。

今は宮大工の会社に所属されていますね。

組合員として所属している東京土建・小金井国分寺支部に就職先を相談し、近隣の支部にも声掛けていただきました。その中で、坂口さん（坂口建設社長）が受け入れてくださることになりました。

これまでに明治神宮では屋根の野地板張り替え、静岡県富士市の妙祥寺では山門の新築に参加しました。妙祥寺ではS字型が特徴の「茨垂木」施工を手掛けました。先輩が用意してくれた部材を取り付けるだけでしたけれど、貴重な体験でした。

奈良研修で訪問した興福寺で、瀧川寺社建築の國樹彰所長から中金堂復元工事の技術的工夫について聞く（2017年11月）

卒業後の仕事は

2019年まで明治神宮の仕事が続きます。その後は、町田市内の現場が始まります。

宮大工と住宅大工の違いについて

技術面で言うと、住宅と違い、材に曲線が多い。作り方は職人の感覚に依拠しているところが多いです。寺社は決まりきった形ではあるけれど、細かいところは作り手次第です。もう一回同じものを作れ、と言われてもできないこともある。

仕事しながらのカレッジ生活は大変でしたか？

現場作業は月曜日から一新し、土曜まで続くことが多いです。在学中は金、土と現場を離れるので、気をつけていないと、翌週どこで、どんな作業をするのか、つかめないことがありました。道具の選び方や運び方で戸惑うことも。多忙な先輩には聞きにくいですから。

技能照査実技試験で奮闘中の髙田さん。課題は「化粧棒隅木」

目的が明確なら、ぜひカレッジ入学を

競技大会の成績を振り返ると

青年技能競技大会、技能五輪のどちらも）出場はしていますが、まだ何もしていない感があります。入賞にも届いていない。足を突っ込んだからには何らかの結果をつかまないと。また、こういう大会に積極的に出ていかないと、手道具を使う機会を増やせません。

卒業制作発表会（2018年2月18日）では、司会の執行香織 講師（ＣＡＤ設計担当）に座ってもらい、感想を聞く場面も。

卒制「自分にとってのものづくり」とは

もともと、こういうことをやりたいな、と思っていました。自分のテーマを追求する以上、他の誰かと組むのはやめました。作品の出来映えはとりあえず形にしたというレベルです。作っていく過程が大事。それを知ってもらえたり、座って何かを感じてもらえればそれでいい。

一番影響を受けた座学授業は何ですか？

橋本英夫先生のすべての授業です。橋本先生の人間性、建築に対する考え方、頭も柔らかさ、物事のとらえ方を見習っていきたい。

これからの夢は？

大工として3年が経ちました。新年度から4年目に。宮大工を続けるのか、住宅に戻るのか。家族の事情があり、長期の地方出張の仕事は難しいので、将来を見通しにくい面もあります。とりあえず、今年は技能五輪でメダルを取れるよう頑張ります。「四方転び踏み台」が課題の全国青年技能競技大会でも安定していいものを作れるようになりたい。賞を取るよりも自分でが納得できるものを安定して作れるかどうかです。

入学を検討している方にメッセージを

明確な目的がある人は入った方がいい。モチベーション保ち続ければかなり成長できます。「会社に言われたから」とか、「就職先を見つけてくれるから」とか、そういう動機の人は、入ってもあまり成長できないような気がします。とにかく、いざやってみると2年間は短いです。貴重な時間を無駄にしないようにしてください。

高田慎太朗さんが出場する全国青年技能競技大会（全建総連）の東京予選は7月22日（日）、東京都立多摩職業能力開発センター府中校で開催します。技能五輪全国大会（厚生労働省、中央職業能力開発協会）は11月2～5日、沖縄で開かれます。応援をよろしくお願いいたします。

第21期生「2年間の総括レポート」から

自分の仕事と今後の抱負

東京建築カレッジでは、1年次から2年次への進級時と修了式直前に、各自の学びを総括するレポートを研修生に書いてもらっています。授業や学校評価の意味もあります。第21期生の総括レポートの一部をご紹介します。

＊石川　喜洋

仕事ではリフォームがほとんどになってますが、学校で培った知識や技術を生かせるよう邁進したいです。また、多くの仲間や先生に出会えたこと、建築の魅力や伝統文化、技術を教えていただき感謝しています。一人でも多くの人々にカレッジの魅力を伝えていきたいと思います。

＊石橋　直幸

建築関係の仕事を頑張りたいです。常に勉強。資格取得を頑張ること。未来にために貯金をすること。自分に甘えないこと。

＊越後　則起

学校で学べたことを生かしたい。仕事でもすごく生かせることだらけだった。

＊岡崎　匠吾

今後は、インテリアやカラーコーディネーターの勉強を少しずつやり、デザインの方に幅を広げたら良いと思っている。二級建築士も早めに取得できるよう頑張りたい。

＊甲斐　充

一流の現場を目指

修了式後の祝賀会で。左は石川喜洋さん。建築の世界への転身を考えていた石川さんはインターネットで建築カレッジを見つけて入学、たくさんの出会いを得ることができました。

修了式で一人ひとりの決意表明。左から今野さん、坂本さん、杉浦さん。後列左から石橋さん、越後さん。

す！

＊柏木　大
　よりいっそう気を引き締めて仕事に向かっていきたいと思います。

＊金成　拓郎
　木材の刻みはあまりやることはないが、個人で家具などを作ってみようと思っているので、そこに役立てたい。研ぎは普段の仕事でもしっかり活用していきたい。

＊神山　健史
　自分は今のところ、作業補助が中心で仕事をしています。基礎的な仕事ができないと何もできないので努力しています。今度はまず現場に一人で出られるようになりたいです。また、和室自体がどんどん減っているので、和室の建具の仕事は減っているのですが、いろいろと付加価値などを提案できるようになり、木製建具を製作したいです。

＊鴨志田　黎
　今は親方の手元で働いているので、仕事をしっかり身につけて、早く確実に力をつけて一人前になる。

＊菊井　謙吾
　カレッジで学んだことを忘れずに、今後の仕事に十分活用していきたい。今後は建築士を一級、二級取って、いずれは工務店を立ち上げたい。

＊今野　善光
　現場で積極的に行動し、入ってくる新人に聞かれたことなどに、きっちりと対応できるように、知識も積極的に取り入れていきたいと思います。

＊坂本　康太
　春から実家の会社で、事業部として、独自に営業、仕事をしていくので、とにかく頑張りたい。親、兄弟、嫁、娘に苦労をかけないよう、ひたすら前に進んでいきたい。30歳までに、「1級建築大工技能士」と「二級建築士」を絶対取得。

卒制「東屋」班の皆さん。左から神山さん、杉浦さん、西脇さん。班長の急な退校という大きな出来事を乗りこえ、突貫工事で完成させた努力が先生方から評価されました。

＊杉浦　泰時
　現場をどれだけ楽に終わらせるかをうまく突き詰めて仕事をしていきたい。

＊高田　慎太朗
　自分がこれから、どこでどのような仕事をしていけるかは分からないけれど、カレッジ生活で得た仲間と、いずれ一緒に仕事をしたいと、思っている。そのために、今、できることは、精一杯勉強し、先のことを考えていきたいと思う。

＊西脇　慎一
　自分の仕事は大工。21期生のみんなとやったことをよく思い出して、根性とか努力を見習って、負けないように頑張りたい。

＊野尻　悠介
　今後は任されることも増えるだろうから、早く仕事に慣れてできることを増やしていきたい。

＊平澤　拳
　大工という仕事を選んで良かったと思う。解体やハツリ、大工と関係のないこともあるけれど、楽しいと思えた。今後は現場を任せられるような大工になる。努力して、ちゃんと稼いで、たくさんの人と関わり大人になります。

＊藤田　悠二
　今後、自分の後輩が増えていく予定だから、そいつらの上に立って、みんなをまとめていけるような人間になりたい。

＊皆川　靖彦
　カレッジで学んだ日本の伝統的な建築を広められるように努力したい。建築業界は働き方など労働条件はひどいので、片隅で生きていきたい。

＊三原　鉄馬
　今、自分は大工をしているので、この学校生活を生かして、知識のある大工さんを目指す。一人でも仕事ができるように頑張っていきたいです。

＊和田　知樹
　自分の仕事は今、基本的に手元とかが多いので、今の仕事を精一杯取り組み、今後、仕事でどんどん任せられるようになり、いつかは独り立ちできるようになりたい。

「カレッジ生活」の感想など（抜粋）

＊石橋　直幸
　次の生徒さんへ。規則正しい生活を。遅刻はしない。毎月ＯＪＴ月報を書くこと。レポートはなるべく覚えているうちに書くこと。

＊越後　則起
　先生方にはすごく感謝しています。卒業できたのも皆様がいたからです。

＊柏木　大
　もっと学んでいきたい科目などがあったり、仕事でも役に立ったことがあり、かなり充実した2年間でした。

3月24日（土）修了式後の記念写真。年齢も、キャリアも、ライフスタイルも多様な研修生が出会い、共に実践的に学び、交流できる場が、東京建築カレッジであることがよくわかります。1996年（平成8年）4月開校以来、修了生は474人になりました。全国的にも、世界的にも、貴重な学び舎です。これからもご支援をお願いします。

＊金成 拓郎

2年間という短い間で、とても内容が濃かった。ただ、すごいスピードで授業が進むので大変だった。

＊神山 健史

カレッジ生活自体は非常に充実したものでした。知識や経験がほとんどゼロだったが、大変勉強になりました。ただ、一部の生徒の授業態度に問題があり、改善が必要と思いました。

＊鴨志田 黎

高卒後、何も知らないまま建築業界に入ってきて、一から学べて、同じ業界で働く同世代の者と過ごせたことはとても心強く、こういう学校があることに感謝しています。2年間ありがとうございました。

＊菊井 謙吾

週4日働いて週2日カレッジ、というのがとても大変だったが、その分、仕事では学べないことも、たくさん学ぶことができたので、2年間頑張って良かったと思った。2年間お世話になりました。ありがとうございました。

＊坂本 康太

この2年間で多くのことを学べたのと同時に、共に歩んできたくさんの仲間たちができた。2年間お世話になりました。ありがとうございました。

＊野尻 悠介

同年代の仕事の仲間もできた。この学校のおかげで、横のつながりがとても広がった。入学前よりも多少は技術も身についたと思う。2年間有意義な時間を過ごせた。

＊藤田 悠二

新卒でカレッジに入って同じ年の仲間がいっぱい出来て、これからの仕事でも助けあえると思うからよかった。

＊皆川 靖彦

四方転びの講習や、技能士の講習で色々支援していただき感謝しています。また、充実した特別授業を期待しています。◆

第23期生が4月4日（水）入学
4月5日（木）から集中授業

第23期生　集中授業が始まります！
4月5日（木）から日曜日除き全9日間です。

「日本における建築の基本は木造建築にある。そして伝統的な大工技術には重要なことがぎっしり詰まっている」。これが建築カレッジの考え方。集中授業では、自分自身の力で自然の素材の姿を変えていく道具の大切さ、道具づくりの基本を学びます。建築の世界では必須の数学の復習にも取り組みます。授業はすべて江東実習場（江東区北砂1－15－12）で実施。見学をご希望の方は事前にご連絡をお願いいたします。池袋校舎03・5950・1771、江東実習場03・5632・4201。

関数電卓を片手に数学の復習。分からないところを教えあうグループ学習で。

最初の実技実習の課題は「道具箱づくり」。その前に、カッターナイフでエンピツを削ってみるという指導もあります。